武蔵御嶽神社　社殿

2,000 年の歴史を持つ武蔵御嶽神社は、巡礼と山修行の場です。御岳山（929m）の山頂に鎮座しています。オオカミの神様である大口真神や修験道の神格である蔵王権現が祀られています。修験道は、神道と仏教と道教が混交した山岳信仰です。境内にはさまざまな刀や鎧が納められている宝物殿あり、その多くが 12～13 世紀に侍たちが奉納したものです。

狼伝説

一部の神社建造物の入り口は 2 匹の狼が守っています。地元の言い伝えで、日本武尊（1 世紀に存在したとされる）が東征の際の話が基になっています。日本武尊が御岳山に到達したとき、深山の邪神が大きな白鹿と化して道を塞ぎました。尊は山蒜で大鹿を退治したものの、そのとき雲霧が発生し、道に迷われてしまいました。そこへ、白狼が現れ、尊を奥の院という安全な場所へ導きました。尊は白狼に、『大口真神としてこの御岳山に留まれよ』と仰せられたのでした。 このときの狼と日本武尊が、武蔵御嶽神社に祀られています。拝殿の中には、この伝説を描いた大きな絵が飾られています。

修験道の山修行

山嶽仏教の本尊である蔵王権現が、奈良時代（710-794 年）、本殿に納められました。蔵王権現は、神道と仏教と道教が混交した山岳信仰、修験道の本尊としてあがめられています。武蔵御嶽神社は、身体的忍耐を悟りへの道と考えた修験道の教えを実践する者たちにとって、巡礼と山修行の中心地となりました。年に数回、武蔵御嶽神社では、滝の下で行われる滝行、山駆け、鎮魂といった修験道の山岳修行体験講座を実施しています。

侍の都を護る

拝殿は、数回にわたって改築されています。鎌倉時代（1185-1333 年）には、神奈川県の侍の都、鎌倉の方角である南向きに建てられていました。17 世紀になると、徳川幕府が移された先の江戸を守るため、東向きになるよう 45 度回転させて再建されました。

太々神楽

拝殿の隣には、神道の儀式的な舞いと音楽である太々神楽が奏上される広間があります。神道の神様の物語を伝えるもので、6 月から 11 月にかけて催されます。神職やその家族により何世代にもわたって受け継がれています。太々神楽は、東京都指定無形民俗文化財です。

武蔵御嶽神社の各社

本殿の左側の道は、各神様に捧げられた一連の小さな神社に続きます。常磐堅磐社（1511 年建立）は最も大きなもので、黒漆に金の装飾が施されています。47 都道府県すべての神様が祀られています。江戸に住み日本各地の故郷へ帰ることが容易でなかった人々の心の支えとなっていました。

本社後方には、狼の神である大口真神が祀られている、精巧な彫刻の施された小さな神社があります。狼は害獣を抑制してくれることから、かつてこの地域の農家の間では好かれており、住宅や事業の守護の神とあがめられています。御岳山や近くの町の住宅では、玄関の辺りに「おいぬ様」のお札が貼られているのも珍しくありません。

江戸時代（1603-1867 年）初代将軍の徳川家康公は、東照社に祀られています。東照社の扉には、葵の葉を模した徳川家の黄金の家紋が 2 つ刻まれています。本殿と同じく、東照社も東京の位置する方角である東を向いています。東照社の隣にある小さな巨福社（こふくしゃ） には、土の神が祀られています。農家たちは、虫や枯れから作物を守るため、巨福社の周辺の土を持ち帰って畑などに撒いていました。